



## 教師の研究も「個別最適な学び」や「協働的な学び」の視点を持って

今年度もあとわずかとなった。子ども達も卒業や修了に向けてカウントダウンを始めているのではないだろうか。また、人事異動の内示もそろそろ出そう頃で、心身ともに落ち着かない時間をお過ごしのことと思う。今回は、教師の学び方について少しだけ考えてみたい。

教師は「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に捉え授業づくりを行っている。これらの学び方は、子ども達だけでなく、教師の学び方にもあてはまるであろう。教師の学びは、一人一人の個の研究が尊重され、全体授業研究会等で、協議される（協働的な学び）ことで、ブラッシュアップされ多くの実践に活かせる「深い学び」へと繋がって行くと考ええる。

「ふくぎじんぶなプラン」にある那覇市学力向上推進計画構想図の中で、「基本方針」や「育成をめざす資質・能力」、「めざす子供の姿」等の方向性が示されている。そのような方向性を共有することは大切であり、現在、それを理解した学校は、特色ある取組を行ってきた。しかし、みんなが同じような実践ができるよう、細部までマニュアル化する事には充分気をつけるべきだと思う。もちろん、授業づくりにおいて、ある程度共通化（そろえる）することは大事だが、授業実践において、みんなが全てをそろえる必要はないのではないかと。十人十色の実践があつていいと思う。授業実践のマニュアル化を図ることが、教師の「個別最適な学び」を阻害することにならないだろうか。初任の教師も、中堅も、ベテランも示されたマニュアルにさえ沿ってれば、どの教師も差がなく授業実践ができるといった考え方もある。ここで懸念しているのは「授業実践はみんな同じ方法」でいいのだろうかということである。そのことが、教師の主体性や創造力をそぎ落とすことにならないだろうか。細かいところまで決めると言うことは、そのような危険が生じる可能性があることも理解しておく必要がある。もちろん、マニュアル化を全て否定するつもりはない。教師の中には、自信を持って指導できない方や、経験が浅く、どうすれば良いか不安を抱く方もいるだろう。そういった方々には、マニュアルはある程度必要であろう。また、マニュアル以上に私は、研究の支えとなる「支持的風土」の醸成が教師集団には必要と考える。主体性や創造力を発揮するためには、個の研究実践を気軽に意見交換のテーブルに載せることができれば、各実践に使える共通項が見つかり、授業の質も高まっていくのではないだろうか。

コロナ禍の休校時の出来事である。午前中は、オンライン授業等で忙しかったが午後は比較的時間にゆとりが持てた時があった。ある中堅教諭が、「今自分が研究している授業を見てほしい。模擬授業に参加して感想を聞かせてほしい」との申し出があった。もちろん自由参加ではあったが、私を含めて、出勤しているほとんどの教師（10名程度）が、その模擬授業に参加した。模擬授業は約20分程度であったが、参加した教師から「めあて提示の方法について」や「個で考えさせるための発問は他のアプローチが良いのでは」などいろいろな意見が出てきた。経験値からの意見や学習指導要領を読み解いての意見等があり、提案者はいろいろな角度からの意見をもらえた。意見をもらった側は、納得解を見つけたために、更なる提案と意見交換を通して、本人の納得解を見つけたことができた。また、他の教師も、自分の実践にも活用できる学びがあったと思う。「協働的な学び」が実践された瞬間であった。その後も、他の教師からも模擬授業を見てほしいとの声があがった。次年度計画が進む中、教師集団も「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に捉えた、校内研究を計画してみてもいいだろうか。

今年度の所報はこれで終了である。多くの先生方から励ましの言葉を頂いたことが、所報を書く原動力となった。大変お世話になりました。次年度も本研究所の事業にご理解・ご協力をよろしくお願ひします。

### 令和5年度 第121期教育研究員・特別研究員



原稿検討会(2/20)

6(水)	プレゼン検討会
25(月)	成果報告会・修了式 リハーサル
26(火)	成果報告会・修了式
28(木)	所外講座③

### 令和5年度 3月 事業予定

8(金)	NARAE ネット推進会議②	琉球大学
14(木)~	次年度初任研に係る説明会(時間割担当)	オンデマンド

### 令和5年度 初任者研修⑬及び閉講式(2/1)

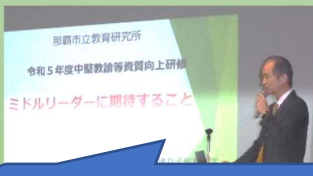
講話：教職2年目に向けて  
講師：仲盛康治(前城北中学校)



初任者代表あいさつ  
「初任者研修を終えて」



### 令和5年度 中堅教諭等資質向上研修⑬及び閉講式(2/2)



講話：ミドルリーダーに期待すること  
講師：儀間 稔(前銘荊小学校)

